

レースって良いよね  
第17回「競争は是か否か」の巻

近年、競い合うことは余り流行らないらしい。というのも、小学校などでは順番を決めるのは良くないという理由から、運動会などで短距離走などのカケッコ競技でも順位付けをしないという所もあるという。また、成績表でもはっきりと内容を明らかにしないのが今風という。

しかしながらそもそも、なぜ順番を決めてはならないのかが私には理解できない。なぜなら、生きる事そのものが生存競争、まさにレースライフなのだと思うからだ。

ただ、人生というレースはいわゆるレーシングスポーツほど単純明快ではなく、奥が深いようだ。レーシングスポーツにおいては結果が全て。どんな内容であってもとにかく一位は一位なのであり、他にとって変わるものは無い。

でも人生はレースでありながら果たしてその順位との相関関係はあるのだろうかと考え、おそらく順位という存在は無いような気がするのだ。それよりもレース内容が問われるのではないだろうか。私自身まだまだ若輩者ではあるが、周囲のオトナ達を見ていると、とみにそう思う機会がある。

話が反れた。教育の現場に競争は必要かということだった。個人的には必要だと思う。

例えば、カケッコに順位は必要か。必要なはずだ。2位と1位は差があるのだし、その差を知ることが教育だと思うのだ。それが個人差であり、もし2位であることが悔しければ1位になれるよう努力すれば良いことだ。

しかし、たとえ努力しても、どうやっても1位になれず、せっかくの努力が報われない場合があるかもしれない。そういう事実を知ることでも必要だと思う。

どんな小さな事柄にも成功と挫折が入り混じっている。それらをバランスよく知るチャンスが教育現場にあるのではないだろうか。

挫折を経験すれば確かにその時点ではへこむこともあるけど、でもその分強くなれる。成功を経験すれば嬉しいし、新たな気力につながる。

ところで、受験戦争という言葉があった。これも競争の一つなのだろうけど、こればかりはどうもいけ好かない。

本来の目的から反れて受験に合格することが目的と見えて仕方がないのだ。

これはマンガではあるが私の人生において多くを学んだ「マスターキートン」の大好きな章がある。その中でキートンの恩師、ユーリー教授の言葉に心を打たれた。

「どんな時に、どんな状況であっても学ぶことは出来る」この言葉は真実であると思う。そうあってほしい。

あれ？ また話が反れたみたいだ。